

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 神戸市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 2 学年 (近現代の日本と世界)	
(2) 単元名または活動名 「 欧米諸国の衝撃と日本 ― 倒幕運動と民衆の願い ― 」	
(3) 対象生徒の実態 (1 人)	
	第 2 学年 国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (10 か月)
A	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の初級指導が終了し、日常会話はほぼできる。 読み書きに関しては、片仮名はまだ理解できていない。平仮名も一部理解できていない。 在籍学級での社会科の授業は、半分程度理解できている。 家庭では日本語話者がいないため、宿題等で日本語学習を進めることが困難な状況にある。母国での学習習慣が身に付いていない影響か、学習がなかなか定着しない。教科書に出てくる頻度の高い熟語がなかなか覚えられないなど、日本語の力の伸びが低い。
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> この章では、開国で日本が世界に組み込まれたこと、日本「近代」の起点になったことを捉えることができる。 攘夷に失敗した長州藩と薩摩藩が、攘夷から倒幕へと変わっていくことを理解できる。 倒幕運動への幕府の対応（大政奉還）と、さらなる倒幕派の動き（王政復古の大号令）、新政府と旧幕府との戦争（戊辰戦争）という一連の大きな流れを理解できる。 江戸幕府の終わりが、武家政治の終焉であることを理解できる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 教科書中の読めない漢字を読むことができる。 歴史上の人物名を読むことができる。（書句ことができる。） 歴史用語が読めて、内容もわかる。 旧地名の場所が今のどこかがわかる。 江戸時代が終わり、新しい時代になることがわかる。 	

2 学習活動

指導者（教科担任），指導補助者（なし）		
全体の時間数（1時間）		
学習活動の状況 指導内容	活動 方法	支援方法（◇学習活動への参加をうながす支援） （◆日本語の理解や表現をうながす支援）
<p>① 【復習】江戸時代の終末を学んでいることをつかむ。</p> <p>② 【復習】下関事件と薩英戦争の内容をおさえる。 《年表でさがす》 《地図でさがす》 《発問に答える》</p> <p>③ 薩摩・長州が攘夷から倒幕に動くところをおさえる。 《教科書音読→語句理解→内容理解》</p> <p>④ 江戸幕府滅亡の過程をつかむ。 《教科書音読→語句理解→内容理解》</p> <p>⑤ 新しい政府が生まれる過程をつかむ。 《教科書音読→語句理解→内容理解》</p> <p>⑥ 旧幕府と新政府との戦いがあったことをつかむ。 《教科書音読→語句理解→内容理解》 《重要語句記述》</p>	<p>取り出し</p>	<p>◆発問「今、何時代を学習しているか。」</p> <p>◇教科書の年表で江戸時代を確認し、次に薩英戦争と下関事件を年表からさがさせる。</p> <p>◇地図（P145 上）で事件の起きた場所をおさえさせる。</p> <p>◇（地図上で）薩摩と長州が今の何県にあたるかを発問し、その後地図帳で調べさせる。</p> <p>◇教科書の写真（P144 上）を見て、事件の内容を思い出させる。</p> <p>◆教科書（P144 の 13～16 行）を音読する。読めない漢字にはふりがなを書かせる。</p> <p>◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。</p> <p>◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。</p> <p>◆ワークシートの前半部分を書かせる。</p> <p>◆教科書（P144 の 17 行～P145 の 3 行）を音読させる。読めない漢字にはふりがなを書かせる。</p> <p>◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。</p> <p>◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。</p> <p>◆教科書（P145 の 4～6 行）を音読させる。読めない漢字にはふりがなを書かせる。</p> <p>◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。</p> <p>◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。</p> <p>◆教科書（P145 の 7～11 行）を音読させる。読めない漢字にはふりがなを書かせる。</p> <p>◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。</p> <p>◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。</p> <p>◆ワークシートの後半部分を書かせる。</p> <p>◆（発展）フラッシュカードで今日の重要語句の読みを練習させる。</p>

3 成果

① 対象生徒

- ・ 重要な歴史用語や人名を読むことができた。ただし、定着のためには今後何回も練習が必要である。
- ・ 江戸幕府が滅び、新時代が始まる内容をほぼ理解できた。
- ・ 旧地名（薩摩、長州、土佐、江戸）が今のどこにあたるかが理解できた。

② 有効だった指導方法

- ・ なるべく易しい表現に変えること、ていねいにゆっくり話すこと、短文を活用することが大原則である。「易しく話す」→「理解させる」→「書くことで定着させる」という流れをつくるのが有効である。
- ・ フラッシュカードを使った指導は、重要語句を繰り返し音読読練させられるので有効である。また、人物のカードについては、新政府のメンバーをグループで整理する等にも活用できる。さらに、生徒に注目させる上でも大切な教材である。
- ・ 発問に口頭で答えさせる活動は、日本語表現をつかむために必要であり、有効でもある。
- ・ 忘れていた訓読みを思い出させる一つの方法として、拍数を図示することで、目で見せて考えさせるという点で有効である。

例) 動く 行 う

○○ ○○○

- ・ 年表で時代を確認する作業は、歴史学習において絶えず必要な作業である。目で見ても時代を確かめることができている。

4 課題

- 外国人生徒への教科指導は、「当該学年の教科書が読めるように」が前提となる。例えば漢字が読めないからといって、小学校低学年のものを使うことは避けたほうがよい。多少音読が難しくても進めるべきである。外国人生徒も、教室にいる生徒と同じことがしたいと思っており、そのことが生徒の意欲にもつながる。指導する教師は、易しい表現への読み替え、ゆっくり話すことや明確な発音を身につけるべきである。
- 外国人生徒への教科指導を進める場合、内容の精選は欠かせない。それにより、大事なことだけを整理して伝えなければならない。社会科であるなら教科書の太字語句を中心に、指導内容を組み立てることである。そのことがJSLカリキュラム社会科の根幹になると考える。
- ワークシートを作成する際に、教科書の太字の語句は書かせるようにしたい。フラッシュカードと合わせるように作ることができればさらに効果的である。
- 教科書や資料集に出ている写真・図・グラフ・表などを読み取る練習はすべきである。外国人生徒が苦手になっている学習であるが、今の社会科学習に欠かせない技能であり、教師がうまく発問することで読み取る能力をつけさせることができる。
- 学習内容の定着をはかるためには、繰り返し何度も練習することが基本となる。この時間に学習した重要なことや読めなかった漢字等は、次の時間やその次の時間にも練習させな

ければならない。漢字の読みなどについては、他教科とも連携することができればさらに効果的である。

- 教科書の読めない漢字の指導は、思い出せそうなら、少し待ってもよいが、困難なものやひらがなの間違い等は直ぐに教え込んだ方がよい。教えて、繰り返して練習することが理解と定着に有効である。
- 外国人生徒にとって濁音と清音を聞き分けが難しい。濁音や半濁音の書き間違いも、考えさせるまでもなく直ぐに訂正させ、濁音のある語句の一つとして憶えこませる方が有効である。